2018 年度

事　業　報　告　書

自　2018 年 4 月 1 日

至　2019 年 3 月 31 日

2019 年 5 月 22 日

一般社団法人 日本ロボット工業会

１．2018 年の業界概況

2018 年を振り返ると、世界経済は、緩やかに拡大するなか、米国での金利上昇や米中貿易摩擦の先行きに対する不透明感から株式市場の不安定な動きが見られるほか、中国においても貿易摩擦の影響が実体経済に現れつつあり、さらにはユーロ圏においても景気減速があらわれつつある。

一方、国内経済は、政府の各種政策効果もあって雇用・所得環境の改善で緩やかながら景気回復が持続している。こうした景気回復のもとで少子高齢化による人手不足感の拡大と併せ、「ロボット新戦略」での政策目標と、それに伴う各種施策に支えられ、投資意欲に底堅さが見られた。

このようななか、2018 年のロボット業界は、上期は前年からの輸出を中心とした自動化需要による大幅な伸びが継続されたものの、米中貿易摩擦などを起点とする投資の先送り、一部業種向け需要の一服などにより下期は鈍化、前年割れがみられるなど、年間としては受注額・生産額ともに対前年比微増となった。会員と非会員を含めた年間受注額は対前年比約 1.5％増の 9,600 億円、生産額は同約 3.7％増の 9,100 億円とそれぞれ過去最高を見込んでいる。

そして 2019 年は、国内需要が引き続き堅調な伸びがみられるものの、出荷の 7 割を占めた輸出は、年初より 2018 年下期からの減速傾向が続いており、全体としてマイナス成長となることが見込まれる。2019 年後半からの回復が期待されるものの、会員と非会員を含めた受注額は対前年比△1.9％の 9,400 億円、生産額は△3％の 8,800 億円と何れもマイナス成長となる見込みである。

以下は、会員ベースでの 2018 年 1～12 月の年間受注・生産・出荷についての実績である。

1）受注

受注台数は、対前年比で＋4.3%の 220,934 台と、6 年連続のプラス成長となり、過去最高値を更新した。また、受注額では同＋2.8%の 7,808 億円と、同じく 6 年連続のプラス成長で過去最高値を更新した。

2）生産

生産台数も、対前年比＋1.3%の 215,513 台と、5 年連続のプラス成長となり、過去最高値を更新した。また、生産額では同＋4.7%の 7,331 億円と、同じく 5 年連続のプラス成長で過去最高値を更新した。

3）出荷

国内は主要ユーザである自動車産業が対前年比二桁増であったほか電気機械産業向けもプラス、一般機械、プラスチック製品、食品等の産業でも伸びがみられた。

海外市場では、前年の反動減となった中国を除くアジア諸国で需要拡大、欧米でも需要は堅調に推移している。

総出荷台数は、対前年比＋2.0%の 215,178 台と 5 年連続で過去最高値を更新した。総出荷額では、同＋4.5%の 7,444 億円となり、同じく 5 年連続のプラス成長とともに過去最高値となった。

国内出荷台数は、同＋17.6%の 46,836 台、国内出荷額は、同＋7.3%の 1,977 億円と

なり、各々5年連続のプラス成長となった。

輸出台数は、同▲1.7%の 168,342 台と、6 年ぶりのマイナスとなった。輸出額は、同＋3.5%の 5,467 億円となり、5 年連続のプラス成長とともに過去最高値を更新した。

3.1）国内出荷内訳

自動車製造業向けは、対前年比＋18.7%の 16,269 台、出荷額では同＋13.7%の 655 億円と二桁増、ともに 5 年連続のプラス成長となった。塗装用は減速となったものの各種溶接用などがプラス成長となった。

電子・電気機械製造業向けは、対前年比＋8.3%の 12,677 台、出荷額は同 1.3%の 604 億円とそれぞれ 2 年連続のプラス成長。半導体用は減速となったものの一般組立用や樹脂成形用が二桁のプラス成長となった。

3.2）輸出内訳

溶接用は、対前年比で▲11.6%の 36,422 台、出荷額は▲9.1%の 930 億円といずれもマイナスとなった。東南アジアや欧州で堅調も、米国での大幅減が影響した。

電子部品実装用は、同＋9.1%の 13,501 台、出荷額は同＋13.4%の 2,152 億円となり、各々プラス成長となった。主要需要国である中国での年前半の伸びが大きかったほか、他アジア諸国や欧米でも需要拡大が続いた。

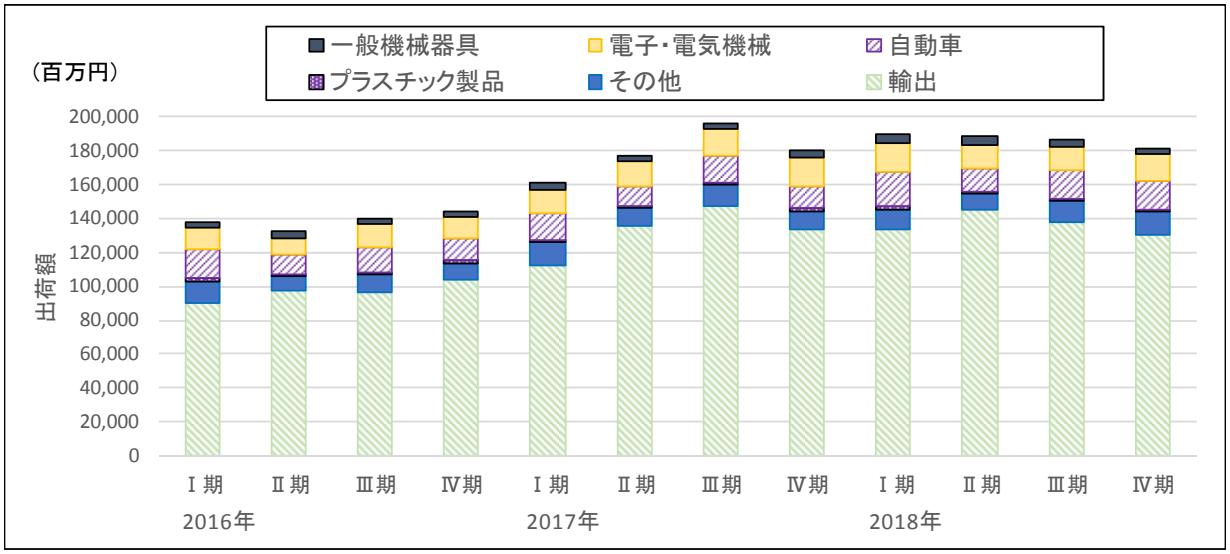
輸出全体で地域別にみると、金額ベースで中国向けが横ばい、アジア全体では同＋3.5%、欧州は対前年比＋21.7%で前年に続き大幅増、米国は同▲11.7%となった。

表1. 会員の四半期統計（受注・生産・出荷）推移

（金額単位：百万円）

	2017 年					2018 年					年間の増減
	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	計	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	計	
受注額	176,220	204,899	178,206	200,050	759,376	218,845	212,597	184,770	164,623	780,835	+2.8%
生産額	157,974	173,338	189,067	179,551	699,930	183,784	184,095	185,842	179,334	733,055	+4.7%
出荷額	160,524	176,545	195,954	179,611	712,633	188,993	188,016	186,086	181,349	744,444	+4.5%

図1. 会員・四半期統計からみた主要業種の出荷額推移



２．2018 年度事業活動の概況

2018 年度は、ロボット及びそのシステム製品に関する研究開発の推進、利用技術の普及促進等を行うことでロボット製造業の振興を図るとともに、広く産業の高度化と社会福祉の向上に資し、もって国民経済の健全な発展と国民生活の向上に寄与することを目的とし事業活動を行った。

2018 年度においては、通常総会のほか、理事会、常設の本委員会をはじめとして、各部会、専門委員会等において以下の通り積極的に事業を展開し、遂行した。

［１］通常総会

2018 年度通常総会は、2018（平成 30）年 5 月 23 日（水）15 時 30 分より東京プリンスホテル「高砂」において開催した。定款の定めにより稲葉善治（一社）日本ロボット工業会会長が議長となり、事務局より会員数、出席者数を報告後、議事録署名人選任を行い、以下の事項について審議、決定した。

1. 議決事項
   （1）2017 年度事業報告（案）承認に関する件
   （2）2017 年度決算報告（案）承認に関する件
   （3）2018 年度事業計画（案）承認に関する件
   （4）2018 年度収支予算（案）承認に関する件
   （5）（一社）日本ロボット工業会の定款の変更に関する件
   （6）会費及び入会規則の改定に関する件
   （7）理事及び監事改選に伴う選任の件
2. 報告事項
   （1）2018 年度委員会組織に関する件
   （2）2018 年度/2019 年度　（一社）日本ロボット工業会行事予定表

2018 年度総会においては特に、正会員及び賛助会員の資格要件を改めて整理し規定を行うとともに、会員種別として新たに準会員制度を設けたことで定款変更の決議を行った。また、理事、監事の改選期にあたることからその選任を行った。



総会懇親会での橋本新会長挨拶



懇親会場での懇談場面